

..... 編集後記 .....

◆昭和39年(1964)10月10日開幕の東京オリンピックに間に合うよう、東海道新幹線の開業式が行われたのが10月1日。この100年前の1864年と言えば元治元年、新選組による池田屋騒動や蛤御門の変のあった幕末動乱期です。ときどき想うのですが、人間100年生きれば、どれくらい社会の変転を経験するのでしょうか。特にこの元治から昭和に至る100年間を生き抜いた人は、日本史の中でも科学が最も急速に進歩し、社会に影響を与えた時代を体験した人と言っても、まず過言ではないでしょう。

例を挙げればきりがありませんが、交通手段だけをみても、例えば東海道の移動が100年のあいだに、徒歩・早駕籠から蒸気機関車、電気機関車、新幹線へと、つまり時速4kmから200km以上へと進歩したわけです。この100年間を生き長らえた人はいたはずですし、東海道を実際に徒歩や早駕籠でも、新幹線ででも、行き来したことのある人はいたのではないのでしょうか。こう考えると、なにか愉快ではありませんか。

完全にこの100年間を生き抜いた人はちょっと思い浮かびませんが、著名人でそれに近い人を挙げてみると、政治家では、尾崎行雄(1858-1954)、牧野伸顕(1861-1949)、宇垣一成(1868-1956)、吉田茂(1878-1967)、科学者では、牧野富太郎(1862-1957)、矢部長克(1878-1969)、芸術家では、徳富蘇峰(1863-1957)、横山大観(1868-1958)、板谷波山(1872-1963)、平櫛田中(1872-1979)、武道家なら、高野佐三郎(1862-1950)、中山博道(1872-1958)といったところでしょうか。

◆さて今月号は、アジア地熱研究特集の第2弾として3篇を掲載し、ほかに「地質調査所「100万分の1日本地質図CD-ROM版」メッシュデータの様々な利用法」と「フッ素の岩石学への適用-再訪-」の2編を掲載しました。

特集の3編、「インドネシア国レンバータ島滞在記-MT法現地調査-」は、標準探査法であるMT法についての解説が、現地での体験や見聞を踏まえて丁寧に述べられています。この分野に従事する方にとって大いに参考になると思います。「ヴァヌアツの地熱資源について-エファテ島とトンゴア島を訪れて-」は、発展途上国における地熱開発の意義とジレンマを二つの島を例にとって記述されています。「アジア地熱データベースの構築について」は、文字通りこのデータベースの構築の意義と重要性が要領よくまとめられています。前号とあわせてお読みいただければ、地圏資源環境研究部門アジア地熱研究グループの、この研究テーマにかける熱意とその成果を読みとっていただけるでしょう。他の2編とあわせてお楽しみ下さい。

◆標本館だよりは「移動地質標本館」、つまりつくばから全国への出張展示に関する記事です。この夏、常陽史料館(茨城県水戸市)で開かれた「鉱物の世界」を例にして、その内容が説明されています。移動標本館は産総研地域センター一般公開や、各地の博物館等の公共施設へ積極的に出張することです。関係ありそうな施設や個人の方々はぜひお読み下さい。(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎  
副委員長：谷田部信郎  
委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 0298-61-3754  
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第578号	2002年	10月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
	2002年10月1日	発行	
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail:jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2002 Geological Survey of Japan  
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。